

報告（1）

第1回懇話会における委員の主な意見

【平和資料館の必要性等について】

・子どもの頃から8月9日になると父親から「もし小倉に原爆が落ちていたら、お前は生まれていない」と言われて育った。その言葉は私の息子にも語り継いでいる。北九州にこのような施設ができる事は、すごく意味のあることだと思う。

・小倉が原爆投下予定地という事を全く知らなかった。しばらくした後に、長崎ではなく小倉に原爆投下する予定だったことを知り、運命的なものを感じた。戦後70年経って平和資料館をつくる事は、戦後の重みを負った精神性の高いものであって欲しいと願っている。

・戦後70年近いこの時間は、押しとどめられない本当に大変な時間だと感じている。今、こうした施設をつくろうというのは、本当に最後のチャンスだと思う。ものの考え方は人それぞれ自由ですが、事実の一つでなければいけない。正しい事実を正しく伝える施設をきちんとつくっていただきたい。

・平和という事を後世の人たちにも、皆さん方がはっきりわかって「戦争という事はしてはいけない」ということを今回、北九州市でも（平和資料館の設置を）やろうという事に対して私たちも本当に賛成している。

・建物自体が鎮魂の思いを抱かせるような、他の商業施設とは違った建物であって欲しい。鎮魂の思いを感じさせるような場所と建物であって欲しいと思っている。

【体験を伝えていくことの重要性について】

・父母や祖母から戦争の話は聞いているが、直接体験したことはない。八幡大空襲の膝元で、近所の方からも戦争の話しを聞くことはたくさんあった。子どもたちに二度とこういう思いをして欲しくない、この思いを引き継いで欲しいと思っている。

・防災に関する授業を長年行っており、阪神淡路大震災、東日本大震災や熊本地震などを通じ、その地で起こった出来事を記録すること、語り継ぐこと、次世代が学んでいくことの重要性を常日頃感じている。もちろん戦災と震災とは違う面があるが、教訓という部分では共通する所があるのではないかと考えている。